

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

税に支えられる生活と向き合うために

藤沢中学校 三年 茂野 愛未

少し前に親の給料明細を見たことがある。控除の部分に「所得税」「住民税」という項目があり、支給金額から数パーセント引かれていたことを覚えている。大きく分けて、国に納める税を「国税」、地方公共団体に納める税を「地方税」と納めるところによりいろいろ分類されている。また、働いている人は所得に対して納める「所得税」、会社の所得に対して納める「法人税」、お酒を飲む人やたばこを吸う人等は「酒税」や「たばこ税」「たばこ特別税」、自動車を使う人には「自動車税」とありとあらゆる我々の生活に税はつきまとう。

中でも毎日の生活に身近な「税」は、「消費税」である。学用品を購入するにも「消費税」、食料品を購入するのにも「消費税」がかかる。一見、納めてばかりいて損しているようにも思えるが、我々はこの「税」というものにいろいろと助けてもらっている。少子高齢化社会において、社会保障はなくてはならないものであり、所得のない高齢者には「年金」、生活に介護を要する人に対しての「介護費」、病院で治療を受けるには「医療費」そして我々子どもに対しての支援の費用など、様々なところで税が活用されている。私は、約七年前に「コレスチリン肉芽腫症」という病気で、大学病院で大きな手術をした経験がある。入院期間が約十日間程度で、

たくさんの医療従事者の方々にお世話になり、薬もたくさん使用した。退院時にはもちろん数十万円という医療費がかかった。また、その翌年には弟が「川崎病」の重症化でかなりの期間入院し、薬も使用した。その時も数十万円の医療費がかかった。一家庭では相当な負担となるが、そこで「税」の一部を使用して、経済的に助けてもらった。

「税」の仕組みは、かなり奥深いが、私が今まで学んだ部分では、国民がお互いに助け合い、国民のそのモチベーションが上がれば上がる程、もっとたくさんの人を助けてあげられる仕組みを作りあげることができないかと考える。ただし、国民それぞれが生懸命納めた「税」を無駄にしないよう、有効的に活用できるようにもっと改良していかなければならないと思った。